

令和 8 年 10 月
東京都建設局

「土砂災害防止に関する絵画・作文」
令和 8 年度 受賞作品決定のお知らせ

東京都では、6 月の土砂災害防止月間の一環として、小・中学生を対象に土砂災害防止に関する絵画・作文の募集を行いました。その結果、合計で 79 点の応募がありました。その中から選考を行い、絵画の部（小学生）2 点、同（中学生）4 点、作文の部（小学生）2 点、同（中学生）1 点の受賞作品を決定しましたのでお知らせします。

建設局長賞 絵画の部(小学生)



文京区立
駕籠町小学校
2年 藤田 いろ葉さん

建設局長賞 絵画の部(中学生)

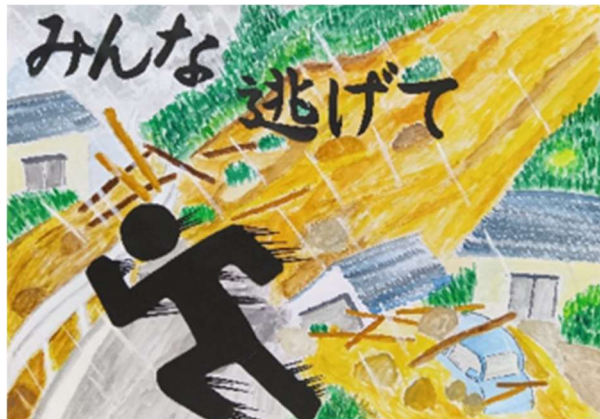


墨田区立
吾嬬立花中学校
3年 磯崎 琉衣さん



目黒区立
東山中学校
3年 池田 羽花さん

河川部長賞 絵画の部(小学生)

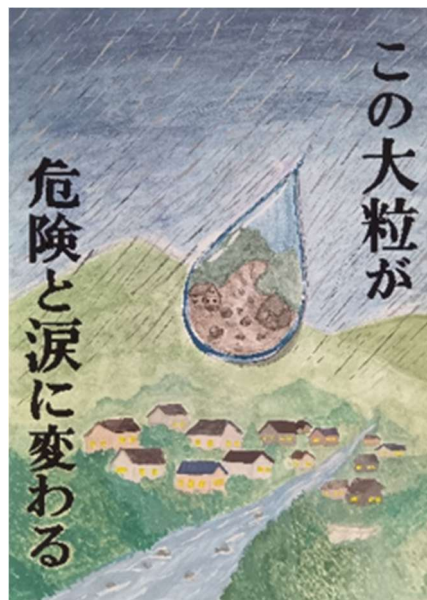


品川区立
芳水小学校
5年 内田 悠日さん

河川部長賞 絵画の部(中学生)



府中市立
府中第五中学校
2年 新井 春さん



墨田区立
吾孺立花中学校
3年 神尾 樹里さん

れいわ7年台風22ごうをけいけんして

八丈町立大かごう小学校 二年

中園 みつき

きよ年の10月、わたしは、はじめて大きな台風をけいけんしました。わたしのすむ八丈島に来た、台風22ごうです。

台風のくる前の日、学校が休みになって、わたしは早く家にかえりました。てい電するかもしれないので、すぐ食べられるパンやおかしを買いに行きました。

その日のおそくに台風が来ました。八丈島にとくべつけいほうが出ました。大雨、ぼう風、はろうなどつぎつぎとくべつけいほうが出たので、そのたびにぼうさいむ線がなって、ねむれませんでした。雨や風がまどに当たって大きな音がしました。まどに大きな石がぶつかっているかと思うくらい大きな音でした。まどがわれて、家がくずれるかと思ってこわくなりました。

朝になっても風がふいていました。家は、てい電していて、ライトもテレビもれいぞうこもつかえませんでした。水どうからも水が出ませんでした。れいとうこの中みがつけてしまうので、いそいで家ぞくみんなでアイスクリームを食べました。まえの日に買ったパンを食べてその日はすごしました。

台風がすぎさってから外に出ると、家の近くの山がくずれて木がたくさんおれていました。木や石がおちてきそうでこわかったです。その後、末吉地いきで大きな土砂さいがいがあつたことをしりました。同じことが大かごうでおきていたら、わたしも大へんなことになっていたかもしれない。

台風のあと、島中で水どうや電気がつかえませんでした。学校にも行けませんでした。今は元どおりになりましたが、つぎの台風が来るかもしれない。だから、わたしは、つぎのことを心がけて、土砂さいがいからのちをまもりま

まず、水や火をつかわないで食べられるものをびちくしておきます。

つぎに、あぶないばしよに近づかないようにします。つう学ろが土砂さいがいけいかいくいきになっているので大雨がふっているときは、べつのみちでかえります。

さいごに、土砂さいがいがおきてしまったら、高いところのにげます。これは、小学校の土砂さいがいひなんくんれんで学びました。

わたしは、この三つのことをまもって、土砂さいがいから自分のいのちをまもります。

守れる命を守るために

葛飾区立新宿中学校 二年

巻口 結菜

二〇二六年八月二十六日、テレビの画面に映し出されたネパールの土石流の映像は、私に大きな衝撃を与えました。一瞬にして美しい景色や人々の穏やかな暮らしを飲み込んでいく大量の濁流と、激しい勢いで崩れ落ちる土砂の様子は、とても私にとって心苦しいものでした。

学校の理科の授業で、土砂災害について学んだときがありました。授業では、土石流の映像を見たり、砂や石、水を利用した土石流の実験を行ったりしました。トレイに盛った砂や石に水を流すと、水分を含んだ土砂が一気に塊となり、ものすごい勢いで滑り落ちていきました。実験という小さな規模であつても、土や水が混ざり合うことでどれほど巨大な破壊力が生まれるのかを、私たちは目の当たりにしました。この授業では、先生が「土石流が町の中を走る速さは、みんなが普段見ている自動車と同じくらいのスピードなんだよ。」と教えてくれました。その言葉を聞いた瞬間、私の中でもすごく恐怖を感じました。時速数十キロメートルというスピードで、あの巨大な泥と石の波が押しよせてくるのです。もし目の前に迫ってきたら、自分の足で走って逃げ切ることは絶対に不可能です。土砂災害の本当の怖さは、一度発生したら一瞬にして命を奪いにくるその「速さ」にあるのだと、身をもって理解しました。

こうした恐ろしい災害は、決して遠い外国の出来事だけではありません。日本でも最近、地球温暖化の影響からか、これまでにないような激しい豪雨になる災害が毎年のように増えています。私の住んでいる場所から近い千葉県でも、今まで経験したことのない集中豪雨による大規模な冠水や崖崩れなどの被害が多くありました。ニュースでみる被災地の様子は、理科の実験がそのまま拡大されたような世界でした。いつ自分が住む地域で同じような土砂災害が起き

てもおかしくないのだと、強い危機感をもつようになりま
した。

今、私たちが突然の災害から大切な命を守るために、ど
のような行動を起こすべきか深く考えました。

一つ目は、事前に危険を予測し、避難について話し合っ
ておくことです。まずはタブレットかスマホからハザード
マップを確認し、自分の家や学校周辺にどのような土砂災
害警戒区域があるのか正確に把握しなければなりません。
そして、いざという時のために「誰が、どこへ、どうやっ
て」避難するのかを、普段の生活の中で具体的に話し合っ
ておくことが大切です。

二つ目は、十分な非常食の備蓄です。先日、地域の防災
フェスティバルに参加した際、アルファ米やカンパンなど
の非常食が配られました。災害が発生して電気や水道、ガ
スなどのライフラインが途切れた時救助や支援物資が届く
までには最低でも三日間でできれば一週間分が必要だと学び
ました。その期間を家族で生き延びるためには、日頃から
の備えが欠かせません。特に、私の家族にはまだ二歳の小
さい妹がいます。大人と同じ固いカンパンやパラパラとし
たアルファ米をそのまま食べることはできません。この小
さな命を守るためには、子供用の非常食を個別に考えて準
備しておく必要があります。柔らかくて食べやすいおかゆ
や、普段から食べ慣れている幼児用のレトルト食品、そし
て少しでも安心感を与えられるようにいつも常備している
おやつなども一緒に備えておくことが、幼い家族の命と健
康を守るために絶対に不可欠だと気付きました。

「守れる命を、確実に守るために。」災害が起きてから慌
てても、パニックになって正しい判断はできません。大切
なのは、災害が起きる前の今、落ちついて行動できるよう
に意識を高めておくことです。

私はこれからもハザードマップの確認や家族の年齢に合
わせた非常食の備えなど、日頃からの「万全な備え」と「高
い防災意識」を持って、日々の生活を大切に送っていき
たいです。

将来土砂災害がなくなること夢みて

品川区立芳水小学校 五年

内田 悠日

「ザーー！」突然の音に驚いて窓の方をみると、外が真っ白で景色が見えません。さっきまで晴れていて体育もできていました。しかし急に土砂降りの雨が降ってきました。しばらくして、「大雨警報が出たため生徒は体育館に移動し、保護者が迎えに来た子から帰宅となります。」と先生たちが忙しそうに始めました。そして僕の家近くを流れる川はあっという間に氾濫危険水位になりました。

僕の母は働いているのでいつもなかなか迎えに来られません。一人、また一人と帰っていくと心細いですが、学校は地域の避難所に指定されているため、たとえ災害がおきたとしても安全な場所に居られるので心強いです。

普段川の近くへ行くと川岸は川の水面よりも何メートルも上までコンクリートで固められています。また、東京都には雨が一気に川や道路に流れ込まないように雨水貯水施設がたくさん造られています。川の上流にはダムがあり、水量を調節することで川の氾濫を防いでくれます。このような工夫により、家の近くの川は氾濫せずにすんでいます。川に取り付けてある定点カメラの映像をみると、いつもの川と様子が違っていました。普段あんなに高いと感じている川岸すれすれまで水面がきていました。自然の力を脅威と感じると同時に、このような状態になることを予想して街が設計してあり、すごいと思いました。「遅くなっでごめんね。川が氾濫しそうだから近づいちゃだめだよ。」あわてて迎えに来てくれた母が言いました。道路を見ると水浸しになっていて、車が水をまきこみながら走っています。

「最近こういう天気が多いのよね。」
母がぼつりとつぶやきました。

この夏、朝目覚めると毎日様々なところで土砂災害が発

生していて心が痛いです。昨晚まで普通に生活していた場所であるのにも関わらず朝になると景色が一変しています。最近では千葉県、北海道、北陸地方など多くの地域でおきています。道路が川のようになっていて濁った水が家の中まで入ったり、田んぼや畑が水浸しになっている映像を見ると今までせつかく築いてきた暮らしが根こそぎなくなってしまうという恐ろしさを感じます。

線状降水帯はいつどこで発生するか分かりません。明日は自分の住んでいる地域で発生するかもしれません。今、地球温暖化の影響で水蒸気量が増えたことによって線状降水帯の発生する頻度が上がっているそうです。

ネパールで起きた鉄砲水の映像も衝撃的でした。あんなに大量の水が一気に街に押し寄せてきたらひとたまりもありません。鉄砲水の原因は溶けた氷河が崩落したことだと知り、聞いたことのない種類の土砂災害だったので更に怖かったです。地球温暖化の影響がこんな形でもあらわれるのかと悲しくなりました。

僕は地球があたたまっていると聞いた時、夏が少し暑くなるのかな、極地の氷が溶けて海水面が上がるのかな、でも冬は暖かくなって過ごしやすくなるのかな、と簡単に考えていました。平均気温が百年で一度上がったと言われてもどれくらい大変なことかあまりよく分かりませんでした。しかし、事態は想像していた以上に深刻でした。毎日世界中いたるところで土砂災害が起き、数多くの人の居場所が奪われ、命が失われているのを目の当たりにすると今すぐに地球規模で取り組んでいかなければならない課題だと思います。

僕は将来、環境問題を解決するための科学者になりたいと思っています。何億年もの間行われてきた地球の営みは、果たして僕たちが大人になるまで続いているのでしょうか。僕はとても心配です。自然の力を目の前にすると、人間は無力だと感じます。壊れつつある地球をなんとかしてもとに戻したいです。そして誰もが安心して過ごせる美しい地球を取り戻していけたらいいなと思います。